議員派遣報告書（閲覧用）

令和６年１月１７日

岐阜県議会議長　様

岐阜県議会議員　伊藤　正博
岐阜県議会議員　渡辺　嘉山
岐阜県議会議員　野村　美穂
岐阜県議会議員　伊藤　英生
岐阜県議会議員　判治　康信

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

記

派 遣 目 的	フランスにて、県産品等の最新の市場等を調査するとともに岐阜県との経済・文化的交流の事情調査を行い、ポーランドにおいては、世界の経済状況と岐阜県への影響等の調査を実施し、ハンガリーでは、岐阜県の地場産業の協同による産業振興策に関する事情調査を行い、今後の本県の施策立案に役立てる
行程表、派遣成果	別紙のとおり

県政に活用できる事項

県 担 当 課	内　　容
文化伝承課	現代陶芸美術館との協同展開催等に関すること
航空宇宙産業課	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館とル・ブルジェ航空宇宙博物館との連携に関すること
地域産業課	伝統工芸と地場産業の協業による産業振興策に関すること

県産品流通支援課	岐阜県産品のプロモーション及び販路拡大に関すること
国際交流課	各国との新たな友好交流提携締結における国際的な交流を通じた海外戦略に関すること
収集資料（別添のとおり）	

視察日程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通機関	日　程　の 概　要 訪問予定先名称等	宿　泊　先
8／28 （月）			JL208　20:55 22:00	中部国際空港 羽田空港着	
8／29 （火）	午前 午後	 フランス パリ ストラスブール コルマール	AF293　0:05 7:55 TGV　11:22 13:12 専用車　14:00	羽田空港発 シャルルドゴール空港着 パリ CDG 駅発 ストラスブール中央駅着 在ストラスブール日本国総領事館訪問、面談 コルマールへ移動 （コルマール泊）	イビス・スタイル・コルマール・サントル
8／30 （水）	午前 午後	フランス コルマール パリ	専用車　10:00 TGV　14:16 16:35	GAS 店（Konjaku）訪問、視察、面談 コルマール駅発 パリ東駅着 （パリ泊）	グランドホテル・ドゥ・アーブル
8／31 （木）	午前 午後	フランス パリ ポーランド ワルシャワ	専用車　10:00 AF1046　16:40 18:55	ル・ブルジェ航空宇宙博物館視察 シャルルドゴール空港発 ワルシャワショパン空港着 （ワルシャワ泊）	ノボテル・ワルシャワ・セントリウム
9／1 （金）	午前 午後	ポーランド ワルシャワ ハンガリー ブダペスト	専用車　10:00 LO537　15:35 16:55	JETRO ワルシャワ事務所訪問、面談 ワルシャワショパン空港発 ブダペスト空港着 （ブダペスト泊）	ノボテル・ブダペスト・セントラム
9／2 （土）	午前 午後	ハンガリー ヘレンド	専用車　10:30 12:30 14:30 16:30	ネーマ・ユリア市展示会視察 美濃焼展関係者と昼食懇談 ヘレンド社美濃焼展開会セレモニー ヘレンド工場視察 （ブダペスト泊）	同上
9／3 （日）	午後	ハンガリー フランス	AF1295　12:15 14:40	ブダペスト空港発 シャルルドゴール空港着 （パリ泊）	グランドホテル・ドゥ・アーブル
9／4 （月）	午前 午後	フランス パリ	専用車　10:00 AF272　22:00	GAS 店（L’embrasser ）訪問、視察 シャルルドゴール空港着発	機内泊
9／5 （火）			18:00	羽田空港着	

岐阜県議会「県民クラブ」
フランス・ポーランド・ハンガリー派遣報告書

「はじめに」

岐阜県議会「県民クラブ」の５名は、令和５年８月２８日から９月５日までの９日間、フランス・ポーランド・ハンガリーを視察しました。

フランスでは、県産品等の最新の市場等を調査し、岐阜県との経済・文化的交流の事情調査を行いました。ポーランドでは、世界の経済状況と岐阜県への影響等の調査を実施しました。ハンガリーでは、岐阜県の地場産業の協同による産業振興策に関する事情調査を行いました。

知事の訪問に合わせた視察ではありましたが、フランスとポーランドでは、知事の訪問先とは別の視察先を選定し、異なる角度から当該地域との連携のあり方を検証しました。

今回の視察の成果を、今後の政策立案に生かしていきたいと考えています。

在ストラスブール日本国総領事館

１．実施日：　2023 年 8 月 29 日（火）
２．視察地：　在ストラスブール日本国総領事館
３．面談者：　在ストラスブール日本国総領事館 主席領事
欧州評議会常駐オブザーバー補佐 小野知之 氏

４．視察結果報告：

（１）視察地の概要

アルザス地方は欧州のほぼ中心に位置し、古くからライン河の河川交通を含め、欧州の交通、物的・人的交流の要でありました。また仏独間で争奪の的となった歴史を有します。アルザス地方は、バ＝ラン県とオ＝ラン県の２県からなり、約９００の地方自治体が存在します。

人口は 1,937,653 人（2023 年推計値）で面積は 8,280 ㎢。

アルザス欧州自治体（CeA）は、2021 年 1 月 1 日にオ＝ラン・バ＝ラン両県の県議会が統合して発足。CeA は、「県」に法的に分類されるが、政府・地域圏から一部権限が委譲されたフランス国内唯一の自治体となりました。本拠地選定をめぐる議論の末、本拠地はストラスブール、本会議開催はコルマールとし、本予算審議は特例として恒常的にストラスブールで開催することで妥結、2021 年 9 月の本会議で議決。両県議会統合後も国の行政機関である県庁は現行の 2 か所（ストラスブール・コルマール）を維持しています。

（２）視察の目的

岐阜県がアルザス欧州自治体（CeA）と新たな協力協定を結ぶことを踏まえて、どのような可能性と効果があるかについての聞き取り調査を目的としました。

（３）視察の内容

在ストラスブール日本国総領事館を訪問し、主席領事 欧州評議会常駐オブザーバー補佐の小野知之氏への聞き取り調査及び意見交換を行いました。

（4）質疑応答

Q： 岐阜県はこれまでバ＝ラン県と協力協定を結んでいたが、バ＝ラン県とオ＝ラン県が合併しアルザス欧州自治体になったことを受けて、岐阜県はアルザス欧州自治体と新たな協力協定を結んだ。協力協定がオ＝ラン県側にまで広がったことをについて、領事館としてどのような効果が期待できるか。

A：バ＝ラン県側にはストラスブール市がある。同市は２つの欧州機関（欧州評議会と欧州人権裁判所）を抱えており、「欧州の首都（Capitale de l'Europe）」と呼ばれている。この地で何かの催しをすることは、欧州全体に発信する効果が期待できる。

Q：岐阜県との経済的・文化的交流について、どのような取り組みが行われており、今後の展望はどうなるか。

A：アルザスワイン街道と飛騨地酒ツーリズム協議会との交流をきっかけに、岐阜県とオ＝ラン県の交流が始まり、観光や文化交流、自治体間交流（高山市とコルマール、白川村とリクヴィル）が進められている。

その他にも天皇誕生日のレセプションでは、400～500 名の出席者に岐阜県の地酒が振舞われ、大変好評だった。

Q：日本人コミュニティーの状況について、現在の人口や活動内容はどうなっているか。

A：1,100～1,200 人程度の在留邦人がいる。研究者や学生が多いが、日本企業も 50 社ほど立地しておりビジネス関連も多い。

Q： ストラスブールと岐阜県との教育交流について、今後の展望はどうな

っているか。
A：ストラスブール大学の日本語学科を卒業した方が、そのスキルを生かした就職先が少ないという現実がある。就職先を掘り起こしていく取り組みが必要だと考える。

Q：ストラスブールにおける観光業の発展について、現在の状況や今後の展望、岐阜県からの観光客誘致策などはどうなっているか。
A：フランス国民は子どもの頃から日本のアニメや漫画に触れ、特にストラスブールでは日本のポップカルチャーのイベントである Japan-Addict が毎年開催されるなど、日本のカルチャーに深い関心を持っている。
　また寿司やラーメンなどの食文化も流行中である。アルザス地区と岐阜県は川魚を食文化としている点が共通しており、観光誘客についてそこに何らかの展開を行っていく可能性を感じる。

5．考察（まとめ）

今回の視察を通じて、岐阜県がアルザス欧州自治体と新たな協力協定を結んだことについて、これまでコルマールやリクヴィルと連携を進めてきたことが、ストラスブールにまで広げることができる意義は極めて大きいとあらためて認識する機会となりました。

ストラスブールはその立地・役割から欧州の首都と呼ばれており、そこでの取り組みが欧州全体に及ぼす効果は他都市と比べて少なくないものがあります。

特にストラスブールでは日本のポップカルチャーのイベントである Japan-Addict が毎年開催されるなど、日本文化に対する関心が深い地域でもあり、こうしたイベントに積極的に出展するなど、岐阜県を売り込んでいく機会は多くあると考えます。

コルマールには日本アニメのモデルとなっている建物があり、そこがアニメファンの間で聖地となっています。

岐阜県は今回の協定で、アルザス欧州自治体が持つ美しい自然を生かしたガストロノミーや持続可能なツーリズムを推進していく方針ですが、岐阜県にあるアニメの聖地をアルザス側にも知っていただく活動もあわせて進めながら、その波及効果を食や観光に広げていく取り組みが必要なのではないかと考えます。

あわせて、そうした取り組みがストラスブール大学で日本語を学んだ方々の活躍の場となるような仕組み作りを行うことによって、人的交流も一層深いものと

なるのではないかと考えます。

ル・ブルジェ航空宇宙博物館

航空宇宙博物館の正面入り口にて

8 月 31 日（水）午前 10 時から、パリの北約 16 ㎞にある「ル・ブルジェ航空宇宙博物館」を視察しました。

この航空宇宙博物館は、ル・ブルジェ空港の一角にあり、ル・ブルジェ空港は、1908 年から隔年毎に実施されている航空宇宙機器の国際見本市「パリエアショー」が今年（2023 年）も 6 月 19 日から 25 日まで開催されました。

フランスが世界の航空宇宙業界をリードしている代表的なエアショーであり、フランスが世界に誇る国立の航空宇宙博物館となっています。

１．ル・ブルジェ航空宇宙博物館とは

屋外展示場で世界最大の旅客機 A380 の前で

ル・ブルジェ航空宇宙博物館は、1975 年 5 月 27 日にル・ブルジェ空港の敷地に、最初の展示ホールが開設されました。

そして、宇宙をテーマにしたスペースホールが建設された以降、1983 年までに段階的に増設し、展示面積を拡大し現在の「航空宇宙博物館」になっています。航空機の黎明からその発展とともに、コレクションを増やし続け、現在ではコンコルド・ボーイング 747、エアバス 380、ロケットまでをカバーする規模となっています。展示機数は約 400 機、第 2 次大戦中にドイツ軍に撃墜された機体や搭載されていた残骸など約 38,000 点を展示、収集しています。

室内に展示されているコンコルド

宇宙関係の展示ブース

室外展示されているロケットと
B747 ジャンボ

新しくリニューアルされた屋内展示場
（歴史的に価値ある各種機材が展示されている）

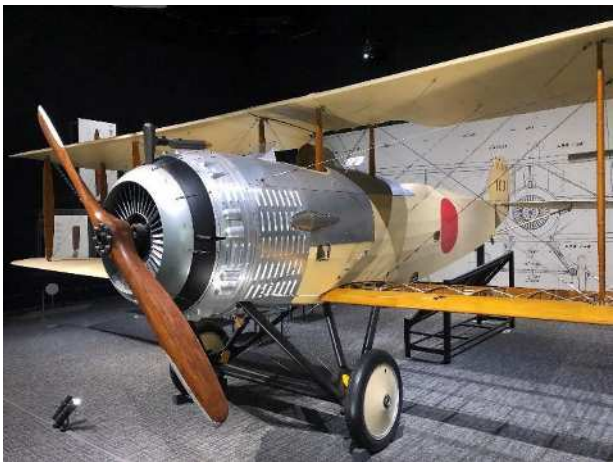
２．日仏の航空機の歴史は

陸軍「乙式一型偵察機（サルムソン２A2)」は、各務原で量産された最初の飛行機です。

各務原での航空機産業の始まりとなった記念すべき飛行機･サルムソン２A2は、第１次大戦中末期のフランスの主力偵察機で、1918（大正 7）年、川崎造船所（現川崎重工業）がフランスのサルムソン社から製造権を取得して国産化に取り組みました。

川崎の製造１号機は 1922 年（大正 11）年 11 月 9 日、各務原飛行場（当時）で初飛行に成功、その後 1927（昭和 2）年 8 月までに各務原で 300 機が生産され、陸軍の偵察機として使われた。

現在、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（空宙博）展示ホール入口に、現存する資料を基に、1995（平成 7）年に復元製作された実物大機体が展示されています。

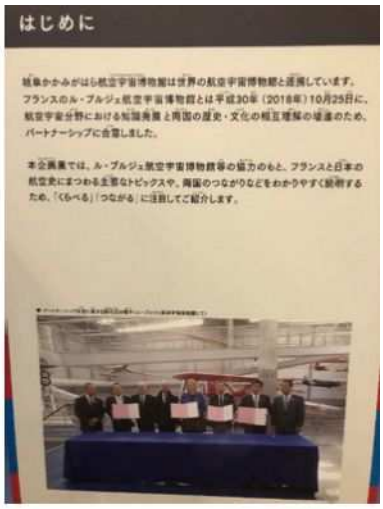


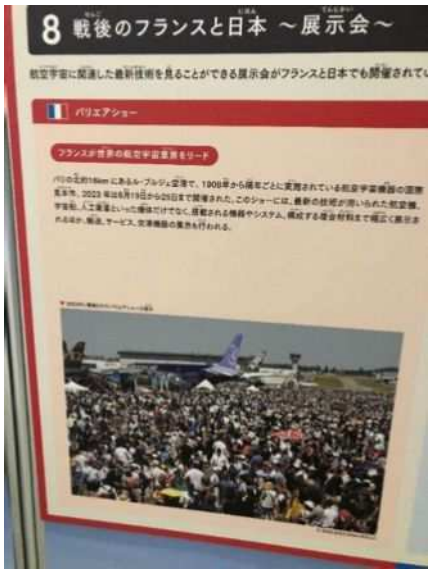
空宙博展示ホール入口に展示されている
「乙式一型偵察機（サルムソン２A2)

３．岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（空宙博）との連携は

ル・ブルジェ航空宇宙博物館と空宙博とは、2018（平成 30）年 10 月に収蔵資料の賃借や学芸員・研究者の人的交流・共同企画展の開催や互いの施設の PR などで連携していく協定を締結しています。

この 10 月には、5 年間の期限を迎える協定を更新する事もあり、古田知事らの今回の訪問になりました。





空宙博で行われた（7 月 22 日～10 月 29 日）
日仏航空ヒストリー

これまでの様々な歴史がわかる内容になっている

４．今後のル・ブルジェ航空宇宙博物館と空宙博との連携は

今回の古田知事らの訪問により、新たな連携協定を締結し相互の人的交流をさらに深めるなど、空宙博のさらなる充実展示などにつながると考えられます。

国内における実機の展示数で日本一を誇る「岐阜かかみがはら航空宇宙博物館」としての位置づけを拡大するべく、子ども達に空や宇宙への関心を高めるような施設としてもその期待はさらに大きくなりました。

視察先：ポーランド JETRO ワルシャワ事務所
実施日：２０２３年８月３１日
視察内容：ポーランドの経済動向について
　　ウクライナ情勢を巡る対応について
　　ビジネス環境の変化について
　　岐阜県に関係する企業の進出状況について
　　ポーランドにおける日本食レストランの展開状況について
面談者：石賀康之　局長

視察結果報告

① 視察地の概要

ワルシャワは、中央ヨーロッパに位置するポーランドの首都であり、最大の都市です。ヴィスワ川の西岸に広がるこの都市は、ポーランドの政治、経済、文化の中心地としての役割を果たしている。中世からの長い歴史を持つ都市で、特に第二次世界大戦中の 1944 年のワルシャワ蜂起後には大きな被害を受け、戦後に多くの歴史的建造物が再建されました。経済の面では、この都市はポーランドの商業と金融の中心地であり、多くの国際企業がオフィスを構え、ヨーロッパの主要都市との交流も盛んです。ポーランドの人口は約 3,801 万人（2022 年 4 月：ポーランド中央統計局）、首都ワルシャワ：179.4 万人、在留邦人 2,012 人（2021 年 10 月）

視察先であるポーランド JETRO ワルシャワ事務所では、ポーランド企業と日本企業とのビジネスマッチングのサポート、ポーランドのビジネス環境や市場動向に関する情報提供、そして日本企業のポーランドへの投資をサポートし、成功に向けたアドバイスやガイダンスを行っています。

② 視察の目的

２０２３年 8 月 31 日に岐阜県とポーランド南部のシロンスク県との間で「経済」「観光」「スポーツ」「文化」の 4 つの分野を軸にした友好交流の覚書が締結されました。この背景を踏まえ、ジェトロの現地駐在員の立場から得られる知見をも

とに、両県の協力や友好関係のさらなる発展について、今後の岐阜県に生かすことを目的にヒアリング及び意見交換を行いました。

③ 視察の内容

・ポーランドの経済動向について

隣国ウクライナの情勢にもかかわらず、２０２２年のポーランドの GDP 成長率は５．１％となりました。良好な労働市場の状況や所得の増加に伴う消費市場の拡大が、この経済の順調な成長を支えています。なお、２０２２年のポーランドの経済指数は、日本の１９８６年頃の状態に近いと言われています。

地理的にヨーロッパの中心に位置するポーランドは、周辺地域の影響を受けやすいと言われています。国内では、西側には比較的富裕な層が、東側には一般市民層が多く住んでおり、失業率も東側がやや高めであることが特徴です。全国平均の失業率は、２０２３年３月時点で５．４％となっています。

・ウクライナ情勢を巡る対応について

ロシアによるウクライナ侵攻から約 2 週間後、ウクライナの避難民を支援する法が施行されました。これにより、避難民は公的医療サービスや社会保険へのアクセスが可能となったものの、ポーランドの雇用主と避難民のスキルや能力との需給のミスマッチといった課題も浮上しています。

日本企業からの相談内容は、ウクライナ避難民支援のための寄付や物流ルートに関することが多くあります。さらに、戦後の状況を見越したビジネスに関する相談も受けられており、ウクライナ産品の日本への輸出やスタートアップ企業との提携・投資など、相談の幅は広がっています。

・ビジネス環境の変化について

２０２２年のポーランド投資貿易庁の支援による対内直接投資は、2 年連続で記録更新を果たし、過去最高の総額 37 億ユーロを記録しました。これは２０２１年と比較して 2 億ユーロの増加となっています。国別の投資額において、日本は全体の３位を占め、２０２２年には３．２億ユーロを投資し、雇用を約１，０００名余り創出しました。

日系企業の進出状況を見ると、２０２１年時点でポーランド南西部に３５８社が進出しており、これにより約 4 万人の雇用が創出されています。これらの企業は主に自動車産業を中心としており、トヨタ、豊田紡織、デンソー、NGK、YKK、ブリヂストンなどの企業が多数進出しています。この地域は自動車部品工場の集

積地となっており、バスをはじめとする商用車の生産が主になっています。

一方、韓国企業の進出は２０２０年時点で５４８社となっており、約 3 万人弱の雇用を創出しています。これらの企業は主に家電や自動車関連の分野で進出し、近年では、韓国企業の広告（サイン）が日本企業を上回るように増加しており、韓国企業の進出が増加傾向にあります。

・岐阜県に関係する企業の進出状況について

輸入・輸出関連企業：２０社（２０２３年)。

主に製造業を中心に、金属加工、刃物、陶磁器、一般機械・電子部品など。企業所在地や地域差、業種の偏りは見受けられません。

・ポーランドにおける日本食レストランの展開状況について

ポーランド国内では、特に寿司やラーメンの店が非常に人気を集めています。ワルシャワなどの大都市では、寿司店だけで１，０００軒以上が営業しており、日本食への関心が高まる中、高品質なレストランも増加し、消費者には選択の幅が広がっています。また、日本産の食品や日本酒を取り扱う輸入業者や小売店も増えてきています。日本の食文化への興味は日々高まっており、近年のトレンドとしては、オーガニックやビーガン対応の日本食材への需要が増加しています。

多くのスーパーには日本食材専門のコーナーが設置され、日本酒や日本のウイスキーも大変人気があり、多くのポーランドの人々に親しまれています。

④ まとめ

ポーランドの人々は、日本を伝統と近代性が調和した国として認識しており、歴史や文化、特に茶道や武道、祭りへの敬意が深く、先進的な技術やファッション、アニメやゲームの産業も高く評価しています。日本の礼儀や敬意を重んじる文化、そして努力や献身的な態度に感銘を受けている人も多い印象です。また、日本製の製品の高品質さも認識されおり、ポーランドは基本的に親日的な国であり、特に若い世代を中心に日本のアートやアニメの人気が高い傾向にあります。首都ワルシャワで開催される日本文化紹介イベントは、ポーランド商工会、日本人会、および日本大使館の共催で、日本食レストランや梅酒販売店の協力を得て、さまざまな日本料理や日本酒が紹介されており、2023 年 8 月のイベントには約 2 万人が参加したとのことです。このような背景から、岐阜県をはじめとする日本の地域や企業がポーランドへの進出をスムーズに行える環境が整っていると考えられます。

トラム：都市交通の重要な一部。多くの都市で近代化がすすみ、低床トラム導入が進められている。

ヘレンド本社

視察先等について

９月２日、ハンガリーヘレンド村にある「ヘレンド社」、「ヘレンド磁器博物館」、及び博物館で開催された「美濃焼展」を視察し、美濃焼展関係者との昼食懇談会に参加しました。

視察にあたって

今回の視察に行くまでに、「ヘレンド」の名前を聞くことがあっても、実際に見たことがなかったことや、日常生活の中で高級食器に触れる機会も少ない私にとって、まるで別世界に足を踏み入れるかのような感覚がありました。

今回のヘレンド社における「美濃焼展」の開催は、令和３年９月にハンガリーのヘレンド社と友好協力に関する覚書を締結した第２弾の事業であり、その第１弾の事業として開催された「国際陶磁器フェスティバル美濃’２１」において「セラミックバレーと世界の陶磁器展～美濃焼とハンガリーの名窯ヘレンド」展が開催されましたが、鑑賞できなかったことが非常に悔やまれました。

ヘレンド本社にて

「ヘレンド」とは

ヘレンド社は、１８２６年ハンガリーの首都ブダペストの南西約 120 ㎞、中央ヨーロッパ最大の湖バラトン湖に程近い、ヘレンド村に開窯し、ハンガリー初の磁器工房でした。

１８４２年にはハンガリーで初めて開催された産業博覧会に出品されました。

ヘレンドは高い評価を受け、産業協会を経てヘレンドの名が広まり、ハンガリーの国章の使用を許可され、帝室・王室御用達の磁器製作所として承認されます。

１８５１年、当時の全盛を誇っていたヴィクトリア女王が、ウィンザー城用にヘレンドのディナーセットを購入したことでヘレンドの名が広く知られることとなります。

美濃焼展オープニングセレモニーの様子

ヘレンドの作品は、素材や生産工程は最先端の技術で管理されていても、それはあくまで手造り、手描きの伝統を守るためのテクノロジーに他ならず、ごく小さな小皿から２ヵ月以上を要する大作まで、ヘレンドではすべてのポター（陶芸家）、ペインター（絵付師）たちが精魂込めて仕上げていくというクラフトマンシップに加え、ヘレンドは産業革命が進行する時代に誕生し、ひとつひとつを手造り、手描きすることにこだわり、「マスター制度」を礎としたものづくり"匠の技"を選びました。

ヘレンド社は、１８２６年の開窯以来、１９０年にわたり「マスター制度」を大切に守り続けています。

この制度は、ポターもペインターも、ヘレンドが有するすべての技術を身につけ、長期間の修練と学習を経て、最後に厳しい試験に合格することでマスターの称号を得るものです。そして、その称号は一握りの職人たちだけが得られます。

特にペインターにおいては、商品の裏に自身のサインを入れることが出来るのは、マスターにのみに許された権利と証となっています。

なぜ生活に根差した機能的な美濃焼と王侯貴族の御用達ブランドとして扱われてきたヘレンドなのか？という疑問がありましたが、２年前の種まきがあっての事業展開であることに深く感銘を受けました。

時間の経過もありますが、一つ一つの事業を認識できていても、それは点でしか認識ができていなかったことに気づかされ、今回の視察で面の理解をすることができました。

この両者が人材相互受け入れを実施し交流事業展開をしていることも改めて知る機会となりました。その目的は、新たな刺激や技術の習得、新商品開発や新ブランドの立ち上げや販路開拓など、将来の美濃焼産業界の更なる振興や発展へ結びつけていくためであるとのことです。受け入れ事業終了後の成果に大きな期待を寄せたいと思います。ハンガリーは西暦８９６年にアジアにルーツを持つ騎馬民族のマジャル民族の国として誕生した歴史ある国で、日本のように四季があり、季節により見渡す限りのひまわり畑やひなげしの花を見ることができます。多様な

文明のクロスロードともいわれたハンガリーの地で、ヘレンドの絵柄や色彩・形が他の追随を許さないほど多彩な芸術性を持つのは、その独特の民族性に依るものに違いないだろうと想起され、このことから考えると、相互によりインスパイアされやすいのではないかと想像し、期待がさらに膨らみます。

その他の視察等として

ヘレンド社を訪問前に、ヴェスプレーム市でネーマ・ユリア氏の個展を視察。彼女はハンガリー出身の陶芸家で、本年４月～７月に来日し現代陶芸美術館で「やきものにうたう：ハンガリー現代陶芸展」に出展。「日本の焼き物素晴らしい、インスパイアされた」との感想を直接伺うことができました。

土岐市の老舗陶磁器メーカーである金子小兵製陶所社長の伊藤克紀氏と、昼食懇談会でご一緒させていただきました。パリのクリスチャン・ディオール本店でも販売され、ヴェルサイユ宮殿の晩餐会でも使用されるなど国内外で注目を集めるシリーズ「ぎやまん陶」を世に出し注目を集めた製陶所です。

美濃焼展の展示「ぎやまん陶」

「カフェオレカップ」を制作し、パリに持って行ったとき「カフェオレを飲む文化がないのにカフェオレカップを制作しても、それはカフェオレカップではない」と酷評されたと伺いました。海外販路開拓をするための基本のキのような気がしました。寄せる必要はないということなのだと感じました。

また、以前に「ディオールの目に留まった食器が岐阜県で作られている」と知る機会はありましたが、それが「ぎやまん陶」という漆器とガラスの質感を併せ持つ特徴的な食器であるという認識はできておらず、ディオール本店で販売されていることが記憶に残っていたため、さらなるアグレッシブな広報をと提案させていただいた。

まとめ

今回の視察から、ヘレンドの歴史や技術を現地で確認し、ヘレンドで美濃焼展が開催されることの意義を現地で確認できたのは貴重な機会でした。芸術品として

の陶器、生活用品としての陶器、ジャンルや生活レベルに応じた層への細かなアプローチをしながら陶磁器産業の振興を図る必要があると感じました。

GAS 視察

○グローバル・アンテナ・ショップ（GAS）について

・県が海外の主要都市のセレクトショップ等と連携し、県内企業の海外での販売拠点や商品のテストマーケティングの機会を創出する取組み。

・継続的な岐阜県産品の取扱いを促進するため、GAS において定期的に県産品フェア等の連携事業を実施する。

・視察現在、世界８カ国 14 店舗構築。

フランス：4 店舗（パリ　3 店舗、コルマール）

アメリカ：3 店舗（オークランド、ニューヨーク、ロサンゼルス）

シンガポール：2 店舗　　スイス：１店舗　　スペイン：１店舗

タイ：1 店舗　　香港：１店舗　　オーストラリア：１店舗

岐阜県内企業の海外での販売拠点や商品のテストマーケティングの機会を提供するグローバル・アンテナ・ショップ（GAS）事業について理解を深め、その取り組みを評価することを目的として、今回の視察では、フランスのコルマール市とパリ市内の二店舗を訪問視察させていただきました。

2023 年 8 月 30 日（水）　10：00～　コルマール市
「今昔」Konjaku・・・日本の侍から可愛いまで
　オーナー　ファビアン・オスモン

「カワイイからサムライまで」がコンセプトの日本雑貨店で、コスプレ衣装から日本伝統品まで揃い、日本全国の物産を販売しています。

平成 26 年 4 月、飛騨地酒ツーリズム協議会とアルザスワイン委員会が友好提携宣言書に調印したのをきっかけに、高山市とコルマール市が「経済・観光協力協定」を締結、岐阜県もアルザス州オ＝ラン県と「経済・観光に関する覚書」の締結をしたこともあり、岐阜県とのつながりをより強く持つようになりました。

岐阜県と提携しているわけではないが強い繋がりを持って経営しており、2 年前までは「岐阜県コーナー」があったとのことですが、今でも 6 割は岐阜県産のものを扱っています。

また、2 階のワークショップでは「書道」「着付け」「茶の湯」等も行っているほか、「和食イベント」「日本酒プレゼンテーション」等も開催されています。

オスモン氏は、「日本ブランドを確立すべき。」「大好きな日本、特に大好きな岐阜県に 10 月に訪日、多治見市に行く予定。」と述べ、開店前にもかかわらず、親切に対応していただきました。

訪問時も開店と同時に来客あり、日本の人気の高さを感じました。

ショーウインドー

表彰状

名刺

店舗内にて説明を受けるメンバー　　美濃焼

サルぼぼ　　関の包丁　　刀剣　　ミニ掛け軸

日本酒（岐阜のお酒が大好き！）

店内

2023 年 9 月 4 日（月）　10：00～　パリ市
GAS「L’embrasser」ランブラッセ
オーナー　フィリップ・シャヌレ ダーデン
2022 年 11 月 10 日　GAS 新設に向けた覚書締結

覚書締結時にもおっしゃっておられましたが、私たちにも「岐阜の産品の背景にある伝統や歴史、職人の技などをしっかり伝えていきたい。例えば、陶磁器をただ食器として売るのではなく、作家や職人にフォーカスした展示・販売を行いたい。」「岐阜の地酒と食品を組み合わせたプロモーションも企画したい。」「今、フランスで人気のラーメンとどんぶりのセット販売も考えたい。」と、熱い思いを語られました。

「日本が大好き、特に岐阜県が大好き」、「加子母に 2 ヶ月滞在したこともあり、また行きたい」とも言われました。

奥様の由香さんのお話では、
「岐阜県のファンを作りたい。」とのことで、「展示会等イベントが終わるとそれでおしまいではなく、お客様が入りやすい環境を作り、買う買わない関係なく多くの人に来場して岐阜を知って頂きたい」。

「このエリアの方は裕福な方が多く、来店して気さくに話をして、気に入れば友人を紹介し、連れて来てもくれる。そして、良いものを使いたいと思っている。」「このパリで人気が出ればフランス全土に伝わり、さらにヨーロッパ全土に広がる。ここで県産品を販売することは大変意義がある」と言われました。
岐阜県のイメージは、緑、水、きれい、美濃和紙、美濃焼き、飛騨牛、栗、鮎・・・

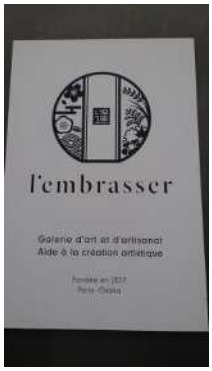
店舗の前で

店舗内にて、オーナーと奥様からレク

奥様からレク

店内

展示品



名刺

まとめ

コルマールは、日本人在住者も多く、きれいな観光地でありお客さんも多く訪れる見込みがあること。

パリに至っては、情報発信の重点地域であること。

そして、両店舗のオーナーは大の日本ファンであり、特に岐阜を愛する皆さんでした。

今後も両店舗並びに他の GAS とも連携し、岐阜県産品の海外展開を更に推進していくことが重要であると感じました。

「おわりに」

今回の視察は、岐阜県議会「県民クラブ」にとって、多くの学びと新たな視点を得る重要な機会となりました。

具体的には、フランスのアルザス欧州自治体では、新たな協力協定を通じて食や観光に波及効果を広げる取り組みや、日本語を学んだ人々の活躍の場を提供する仕組み作りについて学びました。ポーランドでは、その国の経済状況を踏まえ、岐阜県の企業がスムーズに進出できる環境を整備する必要性について理解を深めました。ハンガリーでは、地場産業の協同による産業振興策を参考に、岐阜県の地場産業の振興策について考察しました。これらは、国内では得られない現場の声を直接聞く貴重な機会でした。

これらの知見を基に、会派内で議論を深め、今後の県行政の監視及び政策立案にいかしてまいります。

最後に、この視察にご協力いただいたすべての方々に心から感謝申し上げ、欧州視察の報告と致します。